



第22号

平成23年9月1日発行

The Taki Town
Council Newsletter

東日本大震災 現地報告特集



CONTENTS

■こんなことが決まりました	2
■一部事務組合より	2
■一般質問 定例会一般質問	3-7
■特別委員会報告	7
■東日本大震災被災地見聞報告	8-11
■議会のうごき	12
■次回定例会	12
■たきの風	12

大震災支援活動

西川清嗣議長から山元町佐藤晋也議長へ

発行:多気町議会 編集:議会広報特別委員会

住所:〒519-2181 三重県多気郡多気町相可1600

TEL:0598-38-1120

<http://www.town.taki.mie.jp/chousei/gikai.html>

補正予算決まる!

一般会計補正額 1億4,061万2千円

総額 67億5,833万2千円

こんなことが決まりました

第2回定例会 6月21日～24日

平成23年度会計 補正予算

	補正	議決結果	予算総額
一般会計	1億4,061万2千円	全員賛成	67億5,833万2千円
水道事業会計	9,443万6千円 (収入のみ)	全員賛成	8億4,986万1千円 収入のみなので当初予算 総額に変更はありません
下水道事業会計	51万7千円	全員賛成	11億710万円

条例の一部改正

○多気町税条例の一部を改正する条例

全員賛成

○多気町ふるさと振興基金条例の一部を改正する条例

全員賛成

町道認定路線の廃止

○5106号(色太)

全員賛成

多気町基本構想

○多気町基本構想について

※多気町基本構想の一部修正。

全員賛成

報告

○平成22年度多気町

一般会計繰越明許費繰越計算書

○平成22年度多気町

水道事業会計予算繰越計算書

算書

○平成22年度多気町下水道事業会計予算繰越計算書

陳情

○国民健康保険に対する国庫負担金引き上げを求める自治体意見書採択を求める陳情書

継続審査

○国保国庫負担金調整(減額)廃止を求める自治体意見書採択を求める陳情書

継続審査

○非核三原則の法制化を求める議会決議・意見書採択のお願いについて

継続審査

一部事務組合より

松阪飯多農業共済事務組合

第1回松阪飯多農業共済事務組合議会(臨時会)

○専決処分の承認

家畜共済危険段階共済掛金標準率等の設定について

はい!!

質問

第2回定例会 8人が一般質問

6月定例会の一般質問は、6月22日に行われました。今回の質問者は8人で、防災、環境、福祉、などについて、町の考えをいただきました。

防災行政の取り組みは

前川 勝議員 3頁

災害時の町内避難所と自主防災組織の在り方と町の考え方について

小林 正夫議員 4頁

小中学校等における防災教育・防災学習は

中森 一秀議員 4頁

放課後児童クラブ大規模化へ集約の弊害を問う

中野 正宣議員 5頁

東日本大震災、今後の被災地支援をどのような方針で進めていくのか

西川 浩議員 5頁

高校生レストランまごの店について

西村 茂議員 6頁

「全国学力学習状況調査」実施変更の経緯と今後の方針は

山口 英子議員 6頁

小学校の英語教育について

中西 敏雄議員 7頁

防災行政の取り組みは

答 日ごろの訓練が重要と考える

前川 勝議員

問 東海・東南海・南海地震が30年以内に87%の確率で起こると予想され大災害が考えられる。

町長の決意で、大災害への備えと安心安全な地域づくりに取り組むとあるが、具体的な考えを聞きたい。

答 (建設課長)

平成22年126戸が診断を受け2戸のみ補強工事実施があった。平成23年6月で1179戸が診断対象であり、補強工事については戸別訪問し事業推進を図る。

答 (町長)

地震については震度により、また、風水害については、その都度職員を配備し対応している。

全体的には、日頃の訓練により身に付けて行くものと考えている。6月議会での補正による、シ

エルター設置費・家具固定具費補助を設け取り組んでいる。

問

住宅耐震診断・耐震補強工事補助の現状と今後の取り

答

(総務税務課長)

教育集会所は未検査であり、耐震等も考え地区と話し合い検討する。丹生老人福祉センターの対応は、丹生区等と話し合いを進める。

避難場所は災害別に分けて考えている。しかし、現在のものでは分かりにくいので新たに明確に表したマップ等を作成し配布する。

問

副町長以下9名が東日本大震災被災地支援活動に行かれたが、今後の当町防災の考えを聞きたい。

答

(副町長)

防災計画の見直しはもとより、職員の明確な行動指針等早期の対応を考えている。



家庭用固定器具サンプル

災害時の町内避難所と自主防災組織の在り方と町の考え方について

答 地震、風水害時など、用途別で見直す

問 平成19年3月に策定された防災計画に添って、防災会議で、検討や決定がされていると理解するが、東日本大震災のような想定外の災害が多気町周辺で生じたら、町民の生命、財産は守れないと考える。避難所の見直しと、自主防災組織の強化についての考えは。

答 (総務課長)

今後は、風水害、地震時など用途別で区分して、わかりやすくなるよう見直しを進めていきたい。

現在、小規模災害時に一次的に開設する一次避難所は55か所、大規模災害時に開設する長期

小林 正夫議員

滞在可能な二次避難所が17か所、風水害時の臨時避難所4か所を指定している。新たに今年5月に、相可高校を二次避難所に指定した。

要援護者については、町で把握しており、現在女性消防隊で個別訪問している。

自主防災組織については、年々未組織のところの立ち上げを行って、もらっており、今年度は、自主防災組織等を対象



自主防災訓練

とした避難所運営に係る取組を実施していきたい。

防災については、まず大切なのは隣近所との絆、次に危険があることを知って頂くこと。町としては、ここが危険であるという情報の提供をしていきたい。

小中学校等における防災教育・防災学習は

答 災害発生時には「児童生徒の安全確保」が最優先

問 ①教育現場の防災教育・学習の現状は。

②防災マニュアルの整備
特に児童生徒の登下校時、園児の送迎時の避難誘導、保護者への情報提供と訓練の実施は。

③各現場緊急時における町災害対策本部／教育委員会と現場との情報収集訓練の在り方は。

④各現場段階での防災学習や訓練の成果は。

答 (教育長)

①児童生徒の安全確保を最優先する。基本的には県教育委員会作成の「防災の手引」の他、多気町地域防災計画に基づく「災

中森 一秀議員

害発生時の学校の初期対応マニュアルにより対応している。

②避難誘導は基本的には一時的に「安全」な場所へ退避し、その後自宅か学校か安全に近い方に誘導する。学校に避難した場合は「出迎えカード」を使い保護者に引き渡す。

③緊急時の保護者への伝達は、町防災無線、緊急連絡メール、地区連絡網、各校HPを活用する計画であるが停電や電話が不通となる場合があるので、平時から保護



急げ!! 玄関から外へ (外城田小)

者との共通理解や確認などマニュアルの整備を更に進める。

④各学校では、地震や火災を想定した避難訓練を一年に2〜3回と、予告なし訓練も実施。地震体験車、DVDによる視聴覚学習など訓練を通し児童生徒は落ち着いて速やかな「自分を守る行動」ができるようになっていく。

その他の質問
食物アレルギー対応給食の現状と対応は!

放課後児童クラブ大規模化へ 集約の弊害を問う

問 天啓に公設公営で一個所設置にご理解を

中野 正宣 議員

問 児童館を1億6千万円の予算で建設し町内にある学童保育を一本化する

とのことであるが、学童保育は校区内に設置し活動出来なければ保護者や児童に負担が増え、また、大規模化は子供たちに弊害が生じ事故や怪我が増える指摘されている。また、鈴木三重県知事は校区内に作るべきと明言されている、なぜ集約するのか。

答 (町長)

この施設に取り組んだ要因の一つに公設公営での運営であり、児童厚生員の配置として、障がい児や延長を希望する子供たちを支援していきたい。送迎については各学校へ低学年・高学年に分け迎えに行き、帰りは保護者に施設へ迎えに来ていただく。そして、勢和キッズを残す要

望があれば協議をするが公設公営は難しい。(町民福祉課長)

答

厚労省のガイドラインで児童の上限を定めている、当面50人～60人を想定し、クラス編成は11人～12人とし二人の指導員を付ける、また、プール利用については施設の関係もあり保護者と相談し利用に向けて検討していく。

児童館については今回学童保育と子育て支援センターとして建設するが子育ての総合支援と言う形で、子供に関する全てを集約したい。



勢和キッズハウス

東日本大震災、今後の被災地支援をどのような方針で進めていくのか

問 県の要請に応じる形で支援していく

西川 浩 議員

問

多気町は、同規模の宮城県山元町を重点的に支援していく方針で、これまで2回、職員を派遣し支援物資を届けたが、災害の規模から復興には長い年月がかかる。

今後どのような形で山元町への支援を続けていくのか、また民間の団体や個人の活動を町として支援していく考えはないか。

答

(町長) 現在山元町から支援要請は無く、県から多賀城市への職員派遣要請が来ているので、県の要請に基づき支援を行っていく。これまでも塩釜市へ職員2名を9日間派遣。



被災地の復旧支援

脱原子力、脱化石燃料、再生可能自然エネルギーを取り入れた公共施設を

答 太陽光発電等で省エネ工コな公共施設

問

福島原子力発電所の事故で、日本のエネルギー需要を今考え直す時期にきている。

公共施設の省エネ、エコの取り組みはどのようなものか。今後新設される児童館や、くすの木作業所など、改修される給食センターの給湯、空調施設に木材ペレットを燃料とするボイラー等の導入を考えると無理はないかを問う。

答

(町長) 太陽光発電設備、施設内の照明もLED電球を考えている。

公共施設には計画電氣量を超えた場合、警告を発するデマンド監視システムを導入していく。その他の質問

高校生レストラン、地域経済に与える効果を、今後維持拡大していくには

高校生レストラン まごの店について

答 多気町の発展と振興の
チャンス

問

小さな店である
が多気町に希望を
もたしてくれ、「ま
ごの店」は、計り知れ
ない多気町のイメー
ジアップにつながって
いるが、今後、商工
会とのつながりや、
行政としてどのよう
な方向で活性化につ
ながっていくのか。

答

(町長)

高校生レストラン
は、日本全国に知ら
れている相可高校の
調理実習施設であり、
目指す学校像に、「夢
をかなえ、地域ととも
に歩む学校」と掲げ
られ、地域と連携を
した取り組みをこれ
までされており、多
気町の活性化にとつ
ても、またとないチャン
ス

西村 茂 議員

である。

地元の商工会には、食
べ歩き、うまいものマッ
プ等、ぜひ地元商工会
の商品もより多く売れ
るようにお願いし、おば
あちゃんのお店に、土産物
コーナーもでき、高校生
レストランのシールの貼
り付けだけでも売れ行
きに差があり、多気町
をPRしていきたい。歴
史文化、スポーツ、レク
リエーション、イベント等
にも、取り組みたく、
多気町の発展・振興は、
高校生レストランととも
に歩んでいきたい。

答

(まちの宝創造
特命監)

今回のこのような素
晴らしい機会も十分に
活用しながら、商工会、

観光協会、語り部、母
子福祉会の皆さんとか、
たくさんの方々と一緒に
なつて多気町を盛り上げ
て、協働していきたい。

※「まちの宝創造 特命監」とは

多気町には、まだ
まだ素晴らしい、人
モノ、歴史、自然、
心、習慣など多くの
地域資源が眠っていま
す。そこで、その素
晴らしい地域資源を
発掘、発見し、それ
らを磨きあげたり組
み合わせたりして「地
域の宝」として輝かせ
ていき、地域づくり
を進めていく必要があ
ります。現在は、こ
れらの取り組みを「エ
イチ(英知)プロジェクト
」と位置付け、自
転車文化の振興や多
気町のPRなどいろい
ろな取り組みを積極
的に進めています。こ
のプロジェクトを担当
するのが、「まちの宝
創造特命監」です。

「全国学力学習状況調査」実施 変更の経緯と今後の方針は

答 町内全ての児童生徒の学力
向上に、新しい検査方式の
取り組みへ

問

近年の全国学
力学習状況調査
(以下「学力テスト」
方式の変更により、テ
スト不参加など町の対
応に変化があるようだ
が、その経過とこれか
らどのような方針で取
り組むのか。新たに「標
準学力検査・CRT」と
「アンケート検査・Q
U」また「PDCA(行
動プロセス)サイクル」
方式に変更したその経
緯と根拠を伺いたい。

答

(教育長)
学力テストの調

山口 英子 議員

査方法で悉皆から抽出
に変わったことで各学
校長と相談・検討を行な
った。大切なことは全
児童生徒の学力をいかに
向上させていくかにあ
り、一人ひとりの学力の
実態を把握し課題を明
確して取り組みことが
重要。その方法として
全ての学年の検査を実
施できるCRTを選択
し併せてQUを毎年
度実施して子どもたち
の成長を確かめなが
らよりよい学習に取り
組む。すでにCRTとQ
Uの検査は全校で実
施済みである。

この様に計画立案
(P)ー実行(D)ー評
価検証(C)ー改善行動

(A)のサイクルを毎年
度繰り返すことを通し
て学力を向上させてい
く取り組みを、継続し
ていく方針である。

向上委員会の協議結
果である。その構成は、
小中学校長代表各1
名、小中学校職員代表
各1名、郡指導主事1
名、町教育委員会事務
局3名で、その活動は
町全体の検査結果を分
析して、子どもたちの
学力の強み・弱みある
いは課題を集約整理し
た上、各校の改善経営
計画として活用していく。



小学校の英語教育について

答 英語を通じてコミュニケーション能力の素地や態度を育てることに努力している

中西 敏雄 議員

問 本年度より小学校5・6年生を対象に英語教育が実施されているが教育現場での混乱はないか伺いたい。

- ① 教師のスキルは確保されているのか。
② 教師の負担は相当大きなものがあると思うが管理者のフォローはしっかりとされているのか。
③ 民間の専門教師の派遣要請はしているのか。
④ 子どもたちは楽しく授業を受けているのか。

答

(教育長)
4点について質問

いただいたが、本年度からの外国語活動については、移行期間の2年で中核となる教員を中心に年30時間研修を受け、また先進校の講師や指導主事を招き研修会を実施しスキルアップを図ってきた。

学習指導要領では担任が外国語を指導することになっており、専門講師の派遣は行っていない。また国際交流員(CIR)



による支援やいろいろな教材を使い、担任に対してのフォローもしっかりとされており、子どもたちは楽しく学んでいると聞いている。

火葬場問題調査検討特別委員会報告

本委員会は、前火葬場建設委員会が建設に向け、順調な流れの中で委員会を進めてきましたが、町長交代で久保町長となり、「任期中は火葬場建設に取り組まない」となりました。

しかし、必要性はあるとの説明を受け、火葬場建設に対して火を消さないためにも、火葬場問題調査検討特別委員会の設置という経過があります。

その後委員会の開催数回、近隣の火葬場視察等進める中、勢和地域の勢和斎場の改修工事も済み、意見として満足のいくものであることや、松阪市との行政間でのお願い事は問題が発生した時地元優先となり、細部にわたり調印されたものではないではないか。災害時に備

え、松阪市との関係等他まかせでいいものかどうか。

近隣市町は各自治体で火葬場の運営を行っており、多気町も今後必要性があることから、町営または民間での設置も視野に入れ、本委員会は引き続き前向きな調査検討を進めていくこととします。



〔東日本大震災3・11〕―被災地見聞報告―

Ⅱ 宮城県山元町・仙台空港周辺 Ⅱ

(平成23年7月8日～10日)



大きな△絆△と共に

力強く復興へ！

本年3月11日に発生した未曾有の大地震と大津波は原発事故を誘発し、東北地方に多くの犠牲者と家屋施設などの財産そして農地、工業、観光など多方面にわたり無残な爪痕を残しました。不幸にも、尊い生命を亡くされた方々に、謹んで哀悼の誠意を捧げます。

多気町議会では、この大災害の被災状況をつぶさに見聞・検証し、今後の多気町防災行政の施策に活かそうと、議員提案として本会議で採択され議員派遣となったものです。

また議員として少しでも

被災地の復旧復興の一助となるよう、義援金と支援物資を現地にお届けし、併せて奉仕活動を行なうべく、はるか東北・宮城県山元町に向かったのです。

山元町を支援先に選んだのは、人口規模(約1万5千余人・5千世帯)や地勢・産業構成などが類似している点やこれより前に多気町から山下副町長を団長とする支援団員が2回ほどこの町の復旧に当たっていることなどが理由です。この津波により三陸沿岸から山の手へのほとんどの家屋が流出、学校・駅舎広域清掃センターなどが壊滅

的な被害に見舞われました。また、犠牲者は、行方不明者を含め7百名を数えました。

さて、私たち議員団は、7

月8日早朝、町のマイクロバスを駆って700^キの高速道をひた走ること12時間、まず皆の目に飛び込んできたのは仙台空港周辺で高く積み上げてある「ガレキの山」と「自動車のスクラップの山」で、見渡す限りその一帯は広大な荒れ野原ばかり。津波の威力を肌で感じた一瞬でした。

翌日早朝、目的地の山元町役場を



自衛隊(愛知)が活躍!!(山元町役場)

訪れ、同町の佐藤晋也議長と事務局長の出迎えを受け、当町の西川清嗣議長から議員等より託された義援金と支援物資をお渡ししました。

大震災被災地を

見た議員の

つぶやき

〔出張報告書から抜粋〕

★現地に来て全体を見た。地形のあり方を目の当たりにして「百聞は一見にしかず」。

この体験を生かしたい。

★長い海岸線の広大な土地を今後如何に復興させるか。改めて自然の猛威を痛感した。自然の力を軽視すべきでない。

★常磐線の駅の惨状を見て、残っていたのはホームと駅舎の鉄骨のみ。どこが線路か！津波の恐ろしさを実感した。

★改めて津波の恐ろしさの現実を知った。奉仕作業に被災宅の子供が一緒に汗を流してくれた。支援活動最大の意味は絆。

★役場職員の顔は快活な表情だった。生きる力は家族を愛し、育った地域を大切すること。災害に立



山元町役場



ボランティアセンター

ちなみに支援物資はコメ・生活道具・ハエ捕り紙など被災地のニーズに比べられるものを選びました。

そのあと、同町議会の計らいで、被害が大きかった地域を伊藤議員の案内で視察、車窓からの痛々しい風景にため息を吐きつつ被災地の土の上に立ち、同議員から災害の瞬間の話に耳を傾ける多気町議員の想いはおそらく複雑であつたと思います。

中でも中浜小学校は海岸

からわずかな距離にあり、大津波が押し寄せた短時間に3階のシエルターに避難させ、奇しくも「全員が無事」だったことの説明を聴き、極端な表現ながら学校の避難誘導の判断の時間差が生死を分けると言えるかもしれません。教訓となりました。

その日の午後、山元町社会福祉協議会ボランティアセンターの指示により町南部の

山寺地区に移動、新しい母屋は残ったが、住宅兼納屋は津波で跡形が無くなったという「斎藤」さん宅敷地の跡片付けに汗を流しました。両親は留守でしたが、男兄弟3人（小中高生？）も作業に加わって議員たちとの話も繋がって「ひとつの絆」が生まれた、いい奉仕作業となりました。今回の被災地訪問では、議員一様に、

「震災の状況がよくわかった。来て見てよかった」

「我が町の防災計画など施策に活かさなければ！」

との言葉が聞かれました。（各議員の「つぶやき」の小欄も読んでください。）

完全復旧・復興そして郷土再生までには長い年月が必要であり、継続的なボランティアによる人海作戦が大切と考えます。

今回、所用で参加できなかった議員諸

氏の後方支援に感謝いたします。

また各方面からいろいろと御支援をいただきました方々に、議会より深く感謝申し上げます、現地からの報告を締めたいと思います。

（編集子）

ち向かう精神力だ。

★田んぼの中に漁船が傾いていた。災害の大きさに目を見張った。この家に祖父が住んでいたけど流されたと子供の談。

★ボランティアができることは行政の手が届かないこぼれ落ちる支援をサポートするもの。広域的な地域の繋がりが大切。

★今回の活動に参加し、災害発生時には、公助をあまり期待しないで、自助、共助の大切さを身をもって学んだ。

★中浜小学校は指定の避難所が時間的に間に合わなかった。屋根裏に逃れて全員無事だったが机上のプランは役に立たなかった。

★町のあらゆるものへの被害が甚大。大津波が町の存在を消し去った。人も動物も家も駅も自動車もイチゴハウスも！

△掲載順不同△

がんばろう東北!!

—山元町復興へ—

希望

絆



手伝ってくれた
斎藤さんの子ども
たち



作業を終えて
パチ!!!



バスから物資を降ろす



支援物資を前に
佐藤議長と
(右から二人目)



東日本大震災の 現場から



無残な自動車のスクラップの山



ポツンと残った山元町総合案内板



津波で打ち上げられた車とガレキ



撤去が進まないガレキの山



内陸まで流れ着いた福島漁船

跡形の無い
駅舎とホーム



形がなくなった
大型農機



ハウスの横に流れ着いた船の残がい



中浜小学校の体育館内部

議会のうぶき



5月 May

- 9日 三重県町村議会議長会理事会
- 12日 火葬場問題調査検討特別委員会
- 16日 松阪飯多農業共済組合議会
- 17日～ 第36回
- 18日 全国町村議会議長・副議長研修会
- 17日 自治体議員研修

7月 July

- 6日 議会広報特別委員会
- 8日～
10日 東日本大震災復興支援活動
- 19日 議会運営委員会
- 22日 議会広報特別委員会
- 22日 県議長会理事会

6月 June

- 6日 火葬場問題調査検討特別委員会
- 13日 議会運営委員会
- 21日～
24日 第2回定例会



8月 August

- 1日 議会広報特別委員会
- 3日 県議長会定期総会
- 5日 戦没者追悼式
- 5日 教育民生常任委員会
- 12日 火葬場問題調査検討特別委員会
- 18日 議会広報特別委員会

たきノ風

災害についてこんなに真剣に考えさせられたのは初めてである。天災ばかりでなく、人災も加わり、今回の被害の大きさは計り知れないものとなってしまった。地震、津波、それに原発。結局、安心・安全で平和利用とされてきた原子力発電が、1番不安で恐ろしいものとなった。行先不透明なそんな折、もう1つの風が吹いた。

女子サッカーの「なでしこジャパン」が優勝!金メダルを胸にした。「あきらめない」という強い精神がそうさせたと聞いた。

私たちが応援に行った「山元町」の復興精神は、「心をひとつに」と書かれてあった。

2つの言葉が、深く心に響いた。

(M.N)

議会事務局 FAX(38)1140 E-mail gikai@town.mie-taki.lg.jp

次回定例会の予定

《開催日時》

平成23年第3回定例会

9月27日(火) 午前9時から(予定)

《開催場所》

庁舎2階 本会議場

一日目の町長の提案理由説明までと、一般質問の様子は多気町行政チャンネルで生放送します。また一般質問は録画放送もします。
放送日時等は、決まり次第行政チャンネルでお知らせします。